

海部の地理(十)

— 津久見市 —

矢野 彌生

(会員・佐伯市中山区)



無垢島の
漁業集落

集落の立地

無垢島は、

楠屋鼻地先か

ら東北東六・

五キロメートル

の北東一六キ

ロメートルの

豊後水道に位

置する孤立小

型の離島である。面積はそれぞれ〇・二九平方キロメートルと〇・四八平方キロメートルで、県下の七つの離島の中で最小である。

集落は、地無垢島の北東部の平地と山腹傾斜地に集村をなして立地している。

無垢島の地形

地質の状況を見

ると、沖無垢島

の中北部は秩父

古生層中に挟ま

れる礫岩からな

る大起伏丘陵地

である(一)。

両島は、標高一

〇〇メートル前

後の丘陵性の地

形で、地無垢島

は海岸線から直

ぐに山腹傾斜が

始まっており、

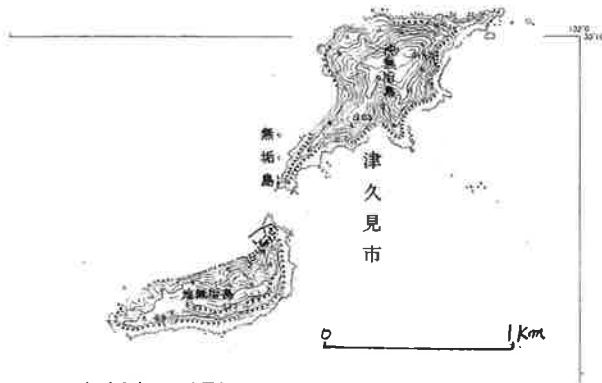


図1 無垢島の地形

(昭和48年改測2万5千分の1「無垢島」図幅による)

平地は少ない。最高点は沖無垢島一一・〇メートルで
一帯は比較的平坦な地形をなし、一部には畑が分布して
いる。

地無垢島と沖無垢島の距離は二〇〇メートルぐらいし
がなく、接近しており、付近の水深も浅い。干潮時には
徒歩で渡ることが出来る。

無垢島は、牟垢島とも牟玖島とも書き、この島が裸島
であるから、むく島とも称されていた。『後選集』第一
九に、「たわれ島を見て」と題して、

名にしおはばあだにぞ思うたわれ島

浪のぬれぎぬ幾夜きつらん

と詠んだのもこの島であるという。この他にも清少納
言の『枕草子』、『伊勢物語抄』にも「たわれ島」のこと
が見られるという。『名所記』によれば、たわれ島は肥
後の名所であるが、肥後のたわれ島もこの島をも共に「は
だか島」と言ったことから、混同されたものであろう
(2)。

また、『豊後国志』には、

牟玖島、穂門郷穂戸島より東北二里にあり、佐伯
城を相距ること五里、蓋し海上のこの島以南が佐伯

管内なり

とある。

無垢島に人が居住するようになったのは、いつごろか
江戸期に白杵に属したとされているが、これも不明な点
がある。白杵藩史料『古史捷』(文化二年九月一八〇五)
に

むく嶋之儀者、佐賀関、佐伯の入会之場所・後略
とある。また、『佐伯藩日記』(明治三年四月一〇日一
八七〇)には、

先般棕嶋之儀兩藩江御沙汰之御趣旨奉拝承候、然
ル処者全ク彈丸之小嶼ニ御座候得共、従来兩藩之草
場ニ致有之・後略

とあり、同文の記事が白杵藩『御会所日記』にも見ら
れる。

以上のような史料から見ても、無垢島は各藩の入会地
で、漁場も入会漁場となっていたと考えられる。更に、

日田県『太政官伺書類』(明治二年九月)には、

豊後国棕嶋之儀、佐伯・白杵二藩東津方面二方り
四五里相隔り、従前論地、孰れ之支配不相決由、夫
故無人嶋にて・後略

とあることからみても、無垢島がどの藩の所屬かはつきりしていなかったことが分かる。そのため、長い間無人島であったのであろう。

無垢島に人が居住していたのは何時か。明確にこれを示す史料は見当たらないが、前述したように、江戸期の佐伯藩や臼杵藩などの史料からも、江戸期に集落の起源を求めるとは無理のようである。恐らく、居住の開始は明治四年（一八七二）の廢藩置県以後ではないかと推測される。古老（薬師寺甚一氏）明治一四年三月一八日生の話（3）によると無垢島の先祖は、百年ぐらい前に住みついたものであるという。

この島には、神話や伝説など全くない。先祖は山脇重助という人と言われているが、どうしてこの島に住みつくようになったかは不明である。現在山上にその人の墓があるという。今日、その関係者は島にはいない。また愛媛県の三崎の人が最初に無垢島に住んだともいわれる（4）。

明治期の土地改良事業は、士族授産のねらいで始められた。政府は『開墾規則』『荒蕪（こうぶ）不毛地払下規則』『官有地払下規則』などを公布し、開墾と入植を

奨励した。

明治六年五月、備中国（岡山県）阿賀崎村の戸川七郎は、無垢島（津久見市）の払い下げを受けている。無垢島は沖ノ島と地ノ島とからなり、総面積四〇町歩。藩政のころから臼杵・佐伯・佐賀閩漁民の入会漁場であった戸川は、地ノ島のうち一五町歩を開墾して、樹芸をおこす計画を立てた。入札した代金は五二五九円三七銭五厘このうち、一〇分の一の五二五九円三銭八厘は租税寮へ即時上納、残りは開墾の成功後でよいという好条件であった（『大分県史料』一八・一九）。これは、他県人が大分県へ入植を希望した例である（5）。この無垢島の開墾は計画通りに実施されたかどうかは不明である。

一方、大分県統計書（6）によると、明治一四年には無垢島に四戸、九人とある。この島の親類縁者は近くの保戸島や臼杵・津久見・佐賀閩が多く、更に愛媛県にもある。無垢島は、保戸島との関係が深く、寺は保戸島の海徳寺・法照寺の檀家となっている。

無垢島の行政上の経過を見ると、明治四年廢藩置県により臼杵県となり、同二二年市町村制施行により北海道郡下浦村と津久見・青江の二町が合併したため、津久見

表1 無垢島の人口(昭和35年から平成2年まで)

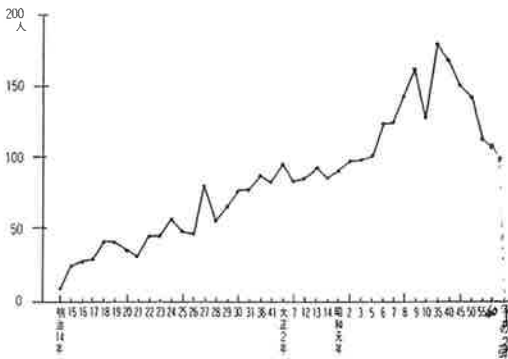
区分	35	40	45	50	55	60	2
人口	180	169	150	142	111	107	93
(増減率)							
40/35	45/40	50/45	55/50	60/55	2/60	2/35	
6.1	11.2	5.3	21.8	3.6	13.1	48.3	

(『国勢調査報告』による)

町に編入される。

過疎化の進行

無垢島の集落は、行政上の区分では長目地区に属しており、平成二年(一九九〇)の人口は九三人、世帯数四一で、一平方キロメートル当たり人口密度二〇・八人である。県内七つの離島では、深島(五八八)、屋形島(七一人)につき人口が少ない。
無垢島の戦後の人口推移を見ると、表1のとおりである。国勢調査人口では、昭和三五年(一九六〇)の一八



〇人をピークに、それ以後は確実に人口の減少を見せている。

図2 無垢島の人口推移

(『統計でみた大分県』(昭和44)・『国勢調査報告』による)

県下の七つの離島を見ると、県北の姫島を除いた六離島は、近年人口減少率は低下しているが、依然として県平均を上回る減少率が続いている。
姫島は、昭和五〇年以後、国勢調査四期連続人口が微増していることは注目され、島おこしの成功例として全国的に高く評

価されている。

昭和三五年と平成二年を対比すると、三〇年間に深島六六・九%、大島六五・九%、屋形島五九・七%、大入島四八・八%、無垢島四八・三%と人口が半減している。その他姫島一九・五%、保戸島一四・七%と、いずれも減少している。また、明治以後の無垢島の人口推移を見ると、図2で明らかのように、明治一四年(一八八一)以来、漸増であるが、ほぼ順調に増加していることが分かる。

島民専用の漁業権 無垢島の周辺は、無人島であったが、ない入会漁場 江戸期から各藩の入会漁場であった

そのため、島民専用の漁業権を持たず、明治初期に人が居住しても、依然として無垢島周辺は津久見・臼杵・佐賀関などの一二か町村の入会漁場であった。現在も、無垢島地先の漁業権については

佐賀関町・臼杵市および保戸島の各漁業協同組合の入漁を拒んではならない。ただし、第二種共同漁業のうち、雑魚小型定置網を除く(7)と、漁業権が厳しく規制されている。

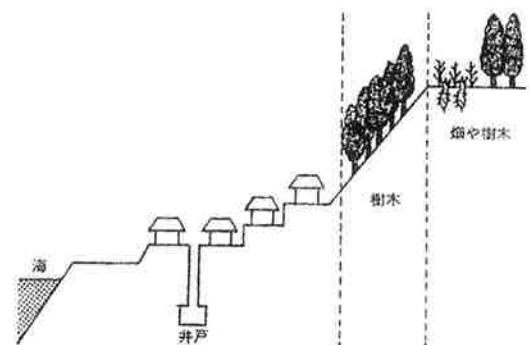


無垢島の集落と漁港

の動力を中心にした零細経営の漁業は、総水揚げ高八一トン、九九〇〇万円程度である。専業漁家二一戸、第一種兼業漁家二戸の計二二戸の漁家がある。近年は漁獲も

近年、水産資源の枯渇により、沿岸漁業は停滞化の傾向にある。かつて「宝島」といわれ、好漁場であった無垢島周辺も沿岸水産資源の減少が著しい。一本釣りおよび採貝草で五トン未満

図3 無垢島の土地利用模式図



例えば、島の者ならサザエでも大きいも

多くとってしまふ。

るより、よその者が

らだ。島民が漁獲す

は、島の地先が入会

生活が出来るのだが

・・・・。濫獲するの

は、島の地先が入会

漁場になってい

るより、よその者が

らだ。島民が漁獲す

るより、よその者が

らだ。島民が漁獲す

るより、よその者が

らだ。島民が漁獲す

るより、よその者が

らだ。島民が漁獲す

るより、よその者が

らだ。島民が漁獲す

るより、よその者が

らだ。島民が漁獲す

るより、よその者が

らだ。島民が漁獲す

ある島民は

現在、島では漁獲が少ないから、佐賀関や遠く豊後

指摘されている。

「とる漁業からつくる漁業」への転換を促進することも

減少しており、島周辺を中心に大型漁礁の造成を検討し

更に、資源の減少に拍車をかけているのが濫獲である。

周辺の水の子付近まで出漁しなければならぬ。島の

周辺は潮流もよく、

海藻やサザエやアワ

びなどの成育がよい。

最大の悩み

は水問題

にある井戸と、南側の浜にある井戸は塩分

が多い。南側で、浜から離れた集落の中にある井戸は、

屋根も取り付けられていて、真水で飲料水に利用されて

いる。ある島民は、

真水の井戸も年三分の一ぐらいは空になる。今から

一〇年ぐらい前は、沖無垢島（無人島）や保戸島に渴

と、島を取り巻く漁業環境の厳しさを語っている（8）

の密漁もあるが、監視船に連絡しても、当てに出来ん

昭和五六年の夏に知事さんが見えた時も、入会漁場を

やめるように訴えたが、やっぱり元のままだ。

島の生活は一層苦しくなっていく。また、よその者

の何を何ともできない状態ってありますか。だから、

生えない。目の前で、夜たき網が魚を一晩中取ってい

また、ヒジキなんかも、島の者なら刈り取るが、よ

よその者は、小さいサザエまで全部とってしまふ。

のだけとって、小さいものは成長するまで待つてとる

また、ヒジキなんかも、島の者なら刈り取るが、よ

よその者は、小さいサザエまで全部とってしまふ。

のだけとって、小さいものは成長するまで待つてとる

また、ヒジキなんかも、島の者なら刈り取るが、よ

よその者は、小さいサザエまで全部とってしまふ。



て、四月末ごろから蚊取り線香をたいたりしたりしたものです。と、昔の島の水事情を語っている(9)。

水期には水を貰いにくく出掛けた。そのころは風呂は全部塩風呂で、雨が降ると屋外にバケツや桶を置いて屋根が受けた雨水は一滴ものがさずを集めた。

また、夕方にとくさん蚊が発生したりし

現在、島の水不足を補うため、昭和五二年度から、給水と旅客を兼ねた定期船が津久見港から、毎日五トン程度を搬入している。集落のほぼ中央部の港に近い浜に、二〇トン入りの飲料水を入れたタンクが設置され、タンクの下方に水道管の蛇口がつけられ、各戸に給水している。しかし、タンクから各戸までの水道管の敷設はない給水船就航後も水不足は続いており、平成五年の現在も「井戸を利用したり、風呂の水は雨水を集めて使う」という。

この島では、水は石油と同じくらい貴重なものとなっており、水不足が最大の悩みとなっている。島は我が国の高度経済成長から完全に取り残されており、国や県などの行政の対応が強く望まれている。

島の土地 地無垢島の字図を見ると、島は津久見市大は市有地 字長目二六四八番地と記されている。島全体が同一の住所で、津久見市の所有地となっている。

地無垢島に集落が成立してから一世紀を超える。だが島民の私有地は皆無である。これは何故だろうか。ある

島民は、

宅地を市に払い下げてもらいたい人もいる。しかし島民全員が希望すれば、宅地を個人に払い下げてもよいという。島民の中には、地代が安いなどの理由で、払い下げを望まない人もいる。だから、何時までも宅地が島民の所有にならない(10)。と語っている。

島の過疎化の進行を少しでも防止し、活性化を図るには、やはり市有地を島民に限り安価で払い下げるとか、漁業後継者用の市営住宅を建設するなど必要ではないかと考えられる。

ツバキの植樹 地無垢島では、集落の背後の丘陵地帯で島づくり にツバキが自生している。このツバキに着目し、

「ツバキの名所として売り出そう」

と、一三年前からツバキの植樹を続けている。現在、山頂から丘陵地の北西部にかけて約五ヘクタールのツバキ園があり、ヤブツバキやヒゴツバキ・ヤエツバキなど約四〇〇〇本が植樹されている。平成元年から、島の婦

人会が、このツバキの実を使ったツバキ油づくりを始めている。新聞報道では、この状況を次のように伝えている。

津久見市は、ツバキ油づくりに全面的にバックアップすることにし、この三月に「無垢島椿油振興事業」として、総事業費約五四万円で粉砕機や搾油機など導入。本格的にツバキ油を製造できる体制が整った。

このため、無垢島婦人会は、食用油製造業の営業許可を県に申請、一〇月始めに許可が下り、食用油として正式にツバキ油の販売を始める。

今年、ツバキの実三四五キログラムを採取。搾油したところ一升瓶(一・八リットル)五〇本分の油が取れた。このツバキ油を「純正手づくり・むくしま椿油」のラベルを貼った瓶(一〇八グラム入り)に詰めて販売する。価格は一本一六〇〇円。手始めに振興祭に一〇〇本出品する。

ツバキ油は、昔から髪油として使われてきたが、最近では食用としても利用されており、同島のツバキ油が特産品として育つことが期待されている。

「品質も良く、機械化で作業も楽になりました。正

式に販売できるようになり、会員も喜んでいます。今後は生産量の増加に取り組みたい」

と、梅田キミエ会長・会員二四人は言っている（『大分合同新聞』平成四年一〇月二四日版）。

交通と 現在、急病人の場合、保戸島（二〇分で生活環境 行ける）で応急手当をしてから、本土の病院に連れて行き、本格的な治療をしている。

大分県は昭和五四年に発行した『島の概況と振興方針』の中で、地無垢島の医療について、

「診療所の設置は困難なため、保戸島・無垢島共同の患者輸送艇導入を検討し、同輸送艇をもって巡回診療を年四〜五回程度実施し、僻地医療の充実を図る」

と、その対策を述べている。

また、大分県は、昭和五七年に発行した『おおいたの島々』の中でも「保戸島と共同の救急消防艇の設置等、緊急医療体制の整備」を述べ、無垢島の医療の充実の必要性を具体的に挙げている。

平成三年五月一三日付けの『朝日新聞』の無垢島探訪記事の中に、次のように医療状況を伝えている。

島には医者がいない。年四回の定期検診の時に訪れるだけだ。島で民宿を営む薬師寺光義さん（五九歳）の妻春江さんは

「高齢化が進み、お年寄りの病気が心配」と嘆く。

「これじゃ嫁は来ないよね」と、若い漁師がつぶやいた。



畑地にある畑

時代から取り

残された島。光義さんの兄弟も、弟一人を除いて四人が島を離れた。が光義さんは島から出る気はない。「漁に出れば食べる分には困らない。畑では新鮮な野菜も取れる。」

自然の恵みを受け、のんびり暮らせる夢のような島
なんだがね」

昼過ぎ、漁港に次々と漁船が帰ってくる。

「陸（おか）へのおこがれから一度は島を捨てた。

でも、いまはおやじと一緒に漁に出るのが楽しくてたまらない。なぜなのかな」

と照れ笑いだした。

三〇歳になる漁師。妻と小さな息子を支える日焼けした顔は自信に満ちている。

無垢島の生活環境を見ると、表2のとおりである。島内には食料品・タバコ・酒類を販売している小売店が三店あるが、主な生活用品は電話注文で、あるいは本土の商店に出掛けて購入している。水産加工は、島の周囲で採れるウニ・クロメ（海藻）など、家庭内で加工して島内で販売している。サービスマの事業所は一軒、運輸業の事務所一軒がある。主な漁獲物は津久見市・臼杵市の市場に出荷されるほか、仲買人による直接取引がなされている。

観光では、地無垢島と沖無垢島の〇・四二平方キロが日豊海岸国定公園区域内にあり、自然環境に恵まれては

市営船「無垢島丸」（昭和58年7月）



いるものの観光施設はない。民宿が二軒（二十八人収容）夏場を中心に一〇〇〇人ほどの釣客が訪れる本土の津久見港との間に、昭和三五年津久見市連航管理組合営貨客船「無垢島丸」（九・五二トン、定員一三人）が就航している。年間乗降客二万人、出入貨物一二〇〇トン。規格道路はなく、自動車のない島である（11）。

表2 無垢島の生活環境

区 分	施 設 整 備 状 況	備 考
交 通・通 信	<ul style="list-style-type: none"> 市営航路…無垢島丸(10t、定員13人) 1日1便 所要時間50分 新船「ニュー無垢島丸(13t、定員12人) 所要時間25分 電話……完全自動ダイヤル 	<p>昭和35・5就航</p> <p>平成元・2就航</p>
飲 料 水	<ul style="list-style-type: none"> ニュー無垢島丸による給水(1日10t) 及び井戸水を使用 	昭和52・11海底 ケーブル完成
電 気	<ul style="list-style-type: none"> 海底送電により完備 	昭和49・12送電
医 療	<ul style="list-style-type: none"> 無医島 定期検診や予防接種は県、 津久見市が年数回実施 	開始
し尿・ごみ処理	<ul style="list-style-type: none"> ごみ 小型焼却炉 し尿 本土からの収集船で収集 	
集 会 施 設	<ul style="list-style-type: none"> 無垢島漁村隣保館 鉄筋コンクリー ト造108平方メートル 	昭和57・3完成
教 育	<ul style="list-style-type: none"> 無垢島小中学校(平成4年現在) 小学校 3学級 5人(うち男2人) 中学校 3学級 3人(うち男1人) 	昭和39・4分校 から独立

(『津久見市統計書』〈平成3年版〉・『おおいたの島々』〈大分県・昭和57〉による)

註

- 1 兼子俊一『豊後水道の島嶼誌』（『豊後水道域』大分大学教育学部 昭和五五年）
- 2 増村隆也『津久見の歴史』（昭和四三年）
- 3 『学校要覧』（無垢島小学校）
- 4 矢野彌生『無垢島の漁業集落』（『津久見市誌』津久見市 昭和六〇年）
- 5 河野昭夫『農林水産業の発達』（『大分県史』近代編1 昭和五九年）
- 6 『統計でみた大分県』（大分県企画部 昭和四四年）
- 7 『大分県の漁業権』（大分県林産水産部漁政課 昭和五四年）
- 8 （4）に同じ
- 9 （4）に同じ
- 10 （4）に同じ
- 11 『離島振興三十年史』（全国離島振興協議会 平成二年）